

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
刑事訴訟法	加藤 拓也	講義	4		1, 2, 3	1, 2, 5	2, 3, 4
授業概要 授業目的	刑事手続の概略や流れ、登場人物とそれぞれの立場、刑事手続における法的論点とその解釈論、実務上の運用状況と判例の動向等について、日頃刑事手続に関与している弁護士が具体的な事件や実務経験に即して解説します。基本的には講義形式ですが、受講者の発言や意見を求めることもあります。						
到達目標	具体的な事件について法律的な観点から問題点を発見し、考察できる力等を身につけることを通じて、一主権者として刑事手続や社会のあり方を考えられるようにすることを目標とします。						
回	学習内容	回	学習内容				
1	刑事訴訟法の概要と授業計画	16	刑事裁判の概略				
2	刑事事件に関わる人とその役割	17	刑事裁判の基本原則				
3	ビデオ視聴と解説 1 (捜査)	18	刑事裁判の審判対象				
4	ビデオ視聴と解説 2 (被告人の立場)	19	証拠物・科学的証拠の証拠能力				
5	ビデオ視聴と解説 3 (公判)	20	自白の取扱い				
6	強制捜査と任意捜査	21	供述調書の取扱い				
7	捜査の始まり	22	違法に収集された証拠				
8	証拠物を収集する捜査	23	適正な事実認定				
9	新しい捜査方法	24	模擬裁判				
10	被疑者の身体拘束	25	判決・上訴・再審				
11	被疑者の取調べ	26	裁判員裁判				
12	被疑者の防御権	27	少年法				
13	前期期末試験と要点解説	28	後期期末試験と要点解説				
14	捜査弁護の実務	29	犯罪被害者保護				
15	前期期末試験の講評	30	有罪判決後の処遇と更生及び後期期末試験の講評				
予習内容 復習内容	予習：授業ごとにレジュメを配布しますので、予習は特に求めません。 復習：上記レジュメの内容とそこで示された判例等を再度確認して下さい。						
教科書	特に指定しませんが、「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣）等の判例集を読むことをお勧めします。判例は、最高裁のホームページでも確認できます。						
成績評価	出席点（不定期に実施する小テスト・レポートを含む。）50%、試験（年2回）50% 毎回出欠をとり、11回以上欠席があった場合には成績評価の対象外とします。また、質問は授業後受け付けることとし、良い質問については出席点のうち10%の範囲内で加点します。						
実務経験	講師は、三重弁護士会所属の弁護士です。刑事事件は今までに130件以上担当し、裁判員裁判や被害者参加の経験も複数あります。その中で得られた実務経験等も踏まえながら、刑事手続について具体的かつ分かりやすくお話しします。						
その他 特記事項	新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、上記授業計画に変更が生じることがあります。その場合には、事前に適宜お知らせします。 授業計画には難しい言葉も並んでいますが、身の回りで起きている事件等にも触れながらできる限り分かりやすくお話ししますので、肩肘張らずに参加して下さい。						